

## 児童館・児童クラブのあり方検討報告書 中間素案

仙台市社会福祉審議会・児童福祉専門分科会  
児童館・児童クラブのあり方検討部会

仙台市子ども・子育て会議  
児童館・児童クラブのあり方検討部会

## 目次

I	はじめに	1
1	児童館・児童クラブのあり方検討の経緯	1
2	「こどもまんなか社会」実現に向けた国の動向	1
3	検討部会の目的、位置づけ	2
4	報告書の位置づけ	2
5	推進方法	2
II	児童館・児童クラブ事業の現状	3
1	事業の目的等	3
2	児童館の機能	3
3	各事業の概要	4
4	現状の調査	5
III	児童館・児童クラブの課題	7
1	面積の確保	7
2	人材の確保・育成	8
3	老朽化・人口減少社会への対応	9
4	環境整備の遅れ	10
5	ICT 利活用の遅れ	11
6	子育て家庭への支援	12
IV	基本理念	13
V	中長期を見据えた基本方針	13
1	児童の生活の場・遊び場の環境改善	13
2	多様性の尊重・子育て家庭を支える地域の拠点	13
3	持続可能な児童館・児童クラブ運営・児童の育ちを支える人材	13
4	社会の変化に対応した施設計画	13
VI	基本方針を踏まえた具体的な対応方針	14
1	児童の生活の場・遊び場の環境改善	14
2	多様性の尊重・子育て家庭を支える地域の拠点	17
3	持続可能な児童館・児童クラブ運営・児童の育ちを支える人材	21
4	社会の変化に対応した施設計画	26
5	子育て家庭の負担軽減、ICT 利活用（1～3にまたがる対応方針、施策）	29

参考資料1 児童館・運営団体アンケート調査

参考資料2 仙台市児童館・児童クラブ利用者等アンケート調査報告書

# I はじめに

## 1 児童館・児童クラブのあり方検討の経緯

- ・仙台市では、子育てを応援する機運を地域社会全体で高め、子ども<sup>1</sup>の成長をすべての人が喜び、子育ての楽しさを実感できる「子育てが楽しいまち・仙台」の実現に向けた取り組みを進めているところである。
- ・児童館・児童クラブに関しては、政令市移行後、1小学校区に1児童館の方針で進めていた児童館整備が一定の進捗に達し、今後は老朽化への対応等が必要となっている。
- ・平成27年度の子ども・子育て支援新制度の導入後、児童クラブの登録児童数の急増により、児童の居場所としての十分な広さの確保やサテライト室の増加、児童クラブ事業以外の子育て家庭支援や地域交流推進等の児童館機能の確保が課題となっている。
- ・また、必要となる職員数も増加し、恒常的な保育士不足の中、放課後児童支援員の確保や育成が課題となっているほか、ICTツールを活用したデジタル化によるサービス向上と職員の負担軽減などにも取り組む必要がある。
- ・このような状況を踏まえ、児童館・児童クラブを取り巻く様々な課題に対応し、将来的に事業を持続可能なものとしていくため、児童館・児童クラブのあり方について検討を行うこととしたものである。

## 2 「こどもまんなか社会」実現に向けた国の動向

- ・近年の就労環境や家族形態の多様化など、子どもと子育て家庭を取り巻く環境や課題が複雑化する中で、国においては、次代の社会を担うすべての子どもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人として等しく健やかに成長することができ、子どもの心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指して、「こども基本法」が令和5年4月に施行された。
- ・また、すべての子どもが身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる「こどもまんなか社会」を実現するために、子ども及び子どものある家庭の福祉の増進及び保健の向上、子どもの健やかな成長及び子どものある家庭における子育てに対する支援並びに子どもの権利利益の擁護に関する事務を行う、「こども家庭庁」が令和5年4月に発足している。
- ・「こども家庭庁」は、常に子どもの最善の利益を第一に考え、子どもに関する取り組み・政策を社会の真ん中に据えて、子どもの視点で、子どもを取り巻くあらゆる環境を視野に入れ、子どもの権利を保障し、子どもを誰一人取り残さず、健やかな成長を社会全体で後押しする、そうした社会を地方自治体と連携を強化しながら目指すとしている。

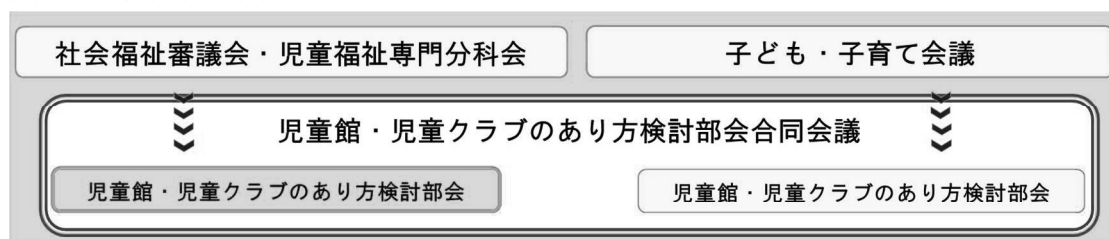
---

<sup>1</sup> 本報告書においては、本報告書が児童館・児童クラブのあり方に関するものであることを踏まえ、原則「児童」と表記するが、法令や事業名として「子ども」または「こども」が用いられている場合や、対象を広く表現する場合においては、「子ども」または「こども」と表記する。

### 3 検討部会の目的、位置づけ

- ・検討部会は、児童館・児童クラブを取り巻く様々な課題に対応し、市民サービスの維持・向上を図りつつ、将来的に事業を持続可能なものとしていくための中長期的な取組みについて、地域の子ども・子育て支援に関わる方や専門的知見を有する方により、集中的、専門的に調査審議することを目的とする。
- ・児童館・児童クラブのあり方の検討は、児童福祉法、子ども・子育て支援法いずれにも関係することから、「仙台市社会福祉審議会・児童福祉専門分科会」及び「仙台市子ども・子育て会議」それぞれに検討部会を設置し、2つの検討部会の合同会議として審議検討を行った。（図表1）

図表1 検討体制図



### 4 報告書の位置づけ

本報告書は、仙台市が今後、児童館・児童クラブを取り巻く様々な課題に対応し、将来的に事業を持続可能なものとしていくための取組みを、効果的かつ効率的に行うための提言として取りまとめたものである。

### 5 推進方法

児童館・児童クラブ事業は、これまでも「仙台市すこやか子育てプラン」により体系的に事業を位置付け、子ども子育て支援法に基づく「仙台市子ども・子育て事業計画」も含め、当該プランに具体的な計画や目標を設定したうえで、事業を実施し、その進捗管理及び評価をしていたものである。

そのため、本報告書の提言内容についても、仙台市として児童館・児童クラブのあり方の方針等についてさらなる精査を行った上で、その具体的な計画や目標等を今後策定する「仙台市すこやか子育てプラン」に盛り込み、事業の推進及び計画管理等を行っていくべきものとする。

## Ⅱ 児童館・児童クラブ事業の現状

### 1 事業の目的等

#### (1) 児童館

- ・児童館とは、児童福祉法第40条に規定される児童厚生施設であり、児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操をゆたかにすることを目的としている。

#### (2) 児童クラブ事業

- ・児童クラブ事業とは、児童福祉法第6条の3第2項に規定される放課後児童健全育成事業で、小学校に就学している児童であって、その保護者が労働等により昼間家庭にいないものに、授業の終了後に児童厚生施設等の施設を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図ることを目的としている。

### 2 児童館の機能

#### (1) 仙台市における児童館の4機能

##### ①児童健全育成機能

- ・自由来館児童への遊び場の提供に加え、遊びの指導や各種行事等をとおして、児童の健全育成を図る。

##### ②子育て家庭支援機能

- ・親子を対象とした行事や幼児クラブの開設、子育て相談、子育てサークル等の育成などにより、子育て家庭の支援を行う。

##### ③地域交流推進機能

- ・地域との連携事業の実施や交流活動をとおして地域コミュニティの活性化を図るとともに、子育て支援クラブ※や子ども会などの児童館を拠点に活動する、児童の健全育成を図る団体の育成支援を行う。

※子育て支援クラブは、子どもの健やかな成長を願ってボランティア活動を行うクラブであり、子育てについての話し合いや行事を地域の中で児童館・児童センターと共に行っている。

##### ④児童クラブ事業機能

- ・昼間に保護者が就労等により家庭にいない小学1年生から6年生の児童を対象に、放課後の遊びや生活の場を提供し、その健全育成を図る。

図表2 児童館の地域交流（老人会との七夕飾り作成）



資料：公益財団法人仙台ひと・まち交流財団 HP

### 3 各事業の概要

#### (1) 児童館事業の概要

開館日・開館時間		・日曜・祝日・年末年始を除く毎日 ・午前9時～午後6時（土曜日は午後5時）
利用対象		・児童（0～18歳未満） ・未就学児は保護者同伴の場合に利用可能
整備状況	児童館・児童センター※1	98館
	マイスクール児童館※2	12館
	コミュニティ児童館※3	2館
	合計	112館※4
	（参考）小学校区	119学区

※1 児童センターとは、児童館の機能に加え、体力増進を図る機能を有するものをいう。

※2 マイスクール児童館とは、小学校の転用可能な教室を活用して、児童館に準じた施設として児童館事業を行うものをいう。

※3 コミュニティ児童館とは、小学校の敷地内で、地域の運営委員会への業務委託により、児童館に準じた施設として児童館事業を行うものをいう。

※4 このほか、令和5年10月より生出小学校区において、主に児童クラブ事業を中心に実施する「生出児童クラブ室」を開設している。

#### (2) 児童クラブ事業の概要

開設時間	平日	放課後～午後6時（延長利用：～午後7時15分）
	土曜日	午前9時～午後5時
	学校長期休業日等	午前8時～午後6時（延長利用：～午後7時15分）
登録児童数		14,315人
	1年生	4,361人（30.5%）
	2年生	4,130人（28.9%）
	3年生	3,123人（21.8%）
	4年生	1,720人（12.0%）
	5年生	747人（5.2%）
	6年生	234人（1.6%）
要支援児※数		738人（5.2%）
待機児童数		11人
	保護者負担金	・基本利用分：3,000円　・延長利用分：1,000円
	減免世帯	・生活保護世帯、市民税非課税世帯等：全額 ・市民税課税かつ所得税非課税世帯等：半額

※要支援児とは、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている児童のほか、同等と認められた児童、また、発達遅滞等により特別な支援が必要と認められた児童をいう。仙台市においては、学識経験者や専門機関の職員等を委員とした支援検討会議において支援の必要性を判定している。

## 4 現状の調査

### (1) 児童館アンケート調査（参考資料 1）

- ・ 調査の目的

各児童館の管理者に対し、児童館・児童クラブ事業の現状や課題等について調査し、諸課題の解決と事業のあるべき姿・将来的な方向性を共に考えていく際の参考とすることを目的として、アンケート調査を実施した。

- ・ 調査対象及び回収率

市内の全児童館（112 館）（回収率 100%）

- ・ 調査方法

児童館管理運営団体へ電子メールにて調査票を送付し、運営団体において管理する児童館の回答をとりまとめの上回収。

- ・ 実施期間

令和 3 年 10 月から 11 月

- ・ 主な調査項目

児童クラブ登録児童数、要支援児対応、児童館の人員体制、児童館の施設・設備

### (2) 児童館管理運営団体アンケート調査（参考資料 1）

- ・ 調査の目的

指定管理者等として児童館運営に携わっている団体に対し、児童館・児童クラブ事業の現状や課題、今後の団体運営を見据えた将来展望等について調査し、諸課題の解決と事業のあるべき姿・将来的な方向性を共に考えていく際の参考とすることを目的として、アンケート調査を実施した。

- ・ 調査対象及び回収状況

市内の全児童館管理運営団体（12 団体）（回収率 100%）

- ・ 調査方法

児童館管理運営団体へ電子メールにて調査票を送付し、回収。その後、調査票をもとに各団体にヒアリングを実施。

- ・ 実施期間

令和 3 年 10 月から 12 月

- ・ 主な調査項目

児童クラブ登録児童数、児童クラブ面積基準、子育て支援室、児童館の人員体制、児童クラブ保護者負担金、サテライト室運営、団体運営上の課題

### (3) 児童館・児童クラブ利用者等アンケート調査（参考資料 2）

#### ・調査の目的

児童館・児童クラブのあり方の検討を進めるに当たり、こども基本法第 11 条（こども施策に対するこども等の意見の反映）の趣旨も踏まえ、児童の居場所の環境改善など諸課題の対応方針の検討に当たっての基礎資料とすることを目的として、小学生（保護者を含む）、中高生及び児童館・児童クラブ利用者等を対象としたアンケート調査を実施した。

#### ・調査対象及び回収状況

調査対象者	配布数	回収数	回収率
①児童クラブ利用児童	606	151	24.9%
②児童クラブ利用児童の保護者	606	209	34.5%
③小学生	653	262	40.1%
④小学生の保護者	653	228	34.9%
⑤乳幼児親子自由来館者	-	155	-
⑥-1 中高生自由来館者	-	162	-
⑥-2 中高生	2,500		

※回収数とは、有効回収数を指し、回収されたが全くの白紙回答であったものなどを除き、集計を行った件数をいう。

※③、④のうち、現に児童クラブを利用していると回答した方は、それぞれ①、②へ合算して集計をしている。

#### ・調査方法

学校、児童館を通じてアンケート調査への協力依頼文を配布し、WEB フォームによるオンライン回答

#### ・調査期間

令和 5 年 6 月 26 日から 7 月 17 日

#### ・主な調査項目

調査対象者	主な調査項目
①児童クラブ利用児童	児童クラブの居心地、改善要望 等
②児童クラブ利用児童の保護者	児童クラブの満足度、改善要望、保護者負担金、長期休業中の注文弁当配送、児童館の立地 等
③小学生（児童クラブ利用児童以外の児童）	児童館へ行きたいと思うか、改善要望、どうなれば児童館へ行きたいと思うか 等
④小学生（児童クラブ利用児童以外の児童）の保護者	児童館の満足度、改善要望、児童館の立地 等
⑤乳幼児親子自由来館者	児童館の満足度、子育て支援室の設置、改善要望 等
⑥中高生	児童館の満足度、改善要望、放課後どのような場所で過ごしたいか 等



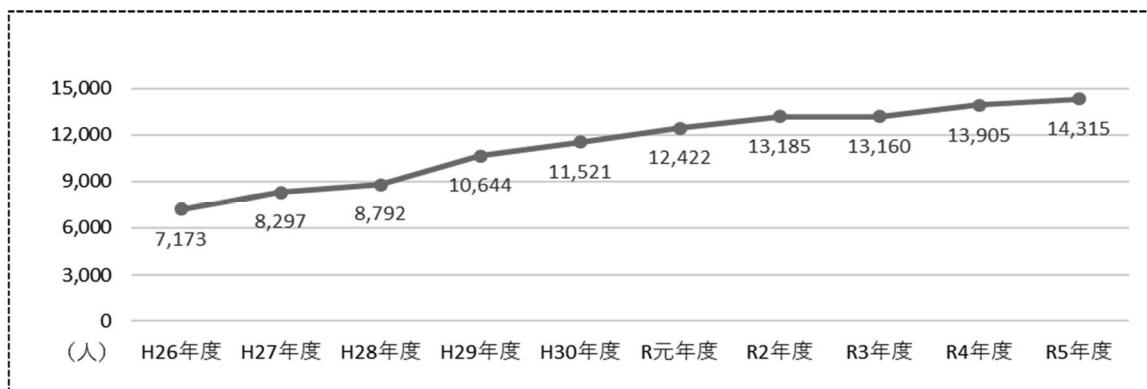
### Ⅲ 児童館・児童クラブの課題

#### 1 面積の確保

##### (1) 十分な広さの確保

- ・市の児童クラブ事業の設備及び運営の基準を定める、「仙台市放課後児童健全育成事業及び家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例」を制定した平成26年度と比較すると、小学6年生までの受入れ拡大や共働き世帯の増加などを背景に、児童クラブ登録児童数が倍増している。(図表3)
- ・児童館での児童クラブ事業実施に当たり、児童館本館で必要な面積が不足する場合は、サテライト室を整備することとしているが、児童クラブ登録児童数の急増等により生活の場・遊び場として十分な広さを確保できていない児童館がある。
- ・児童クラブ利用児童の児童クラブへの要望について、「あそべるスペースを広くしてほしい」が38.8%と3番目に多くなっており、利用児童が十分な広さを求めている状況がうかがえる。(参考資料2 p.8)
- ・また、児童館管理運営団体からも、「よりダイナミックな放課後のくらしを保障するには、基準としてももう少し広い面積がほしい」等の意見が挙げられている。(参考資料1 p.7)

図表3 児童クラブ登録児童数の推移（各年度5月1日時点）



##### (2) 児童クラブ以外の児童館機能の確保

- ・児童クラブ登録児童の急増に伴い、児童館に占める児童クラブ専有割合が増加し、子育て家庭支援機能や地域交流推進機能など他の児童館固有の機能を縮小せざるを得ない児童館がある。
- ・乳幼児親子自由来館者の、児童館への不満点について、「小学校の夏休みなど利用しづらい」が44.5%と最も多くなっており、児童クラブの児童が一日を通して利用する長期休業期間を中心に、乳幼児親子が利用しづらい状況が生じていることがうかがえる。(参考資料2 p.55)

## 2 人材の確保・育成

### (1) 人材の確保

- ・児童クラブの登録児童や要支援児の増加により、必要となる職員数も増加しているが、恒常的な保育士不足や放課後児童支援員の雇用条件等により職員の確保が難しくなっている。(図表 4)

図表 4 児童館管理運営団体の児童館の人員数及び人員確保の課題について

#### 【人員数について】

①大いに不足している	6	②不足している	5	③適正	1
④余裕がある	0	⑤十分に余裕がある	0		

#### 【人員確保に関する課題について】

①募集しても集まらない	7
②良い人材が集まらない	6
③後継者が育たない	5
④十分な賃金が支払えない	3
④人事が固定化	3

参考資料 1 p.7-8

### (2) ノウハウの蓄積

- ・児童クラブの受入れが放課後からであることや、児童の登録状況により必要な職員配置数が変動すること等により、放課後児童支援員は有期の非常勤職員の割合が高くなっている。育成支援・相談支援・要支援児への個別の配慮など専門的な知識や豊富な経験が求められるものの、有期の非常勤職員であるため、ノウハウの蓄積、継承が難しくなっている。

### 3 老朽化・人口減少社会への対応

#### (1) 児童館の老朽化

- ・児童館のおよそ5割が築20年を経過し、老朽化が進んでいる。このうち改修が行われていない児童館へは大規模改修工事等老朽化への対応が必要となっている。(図表5)

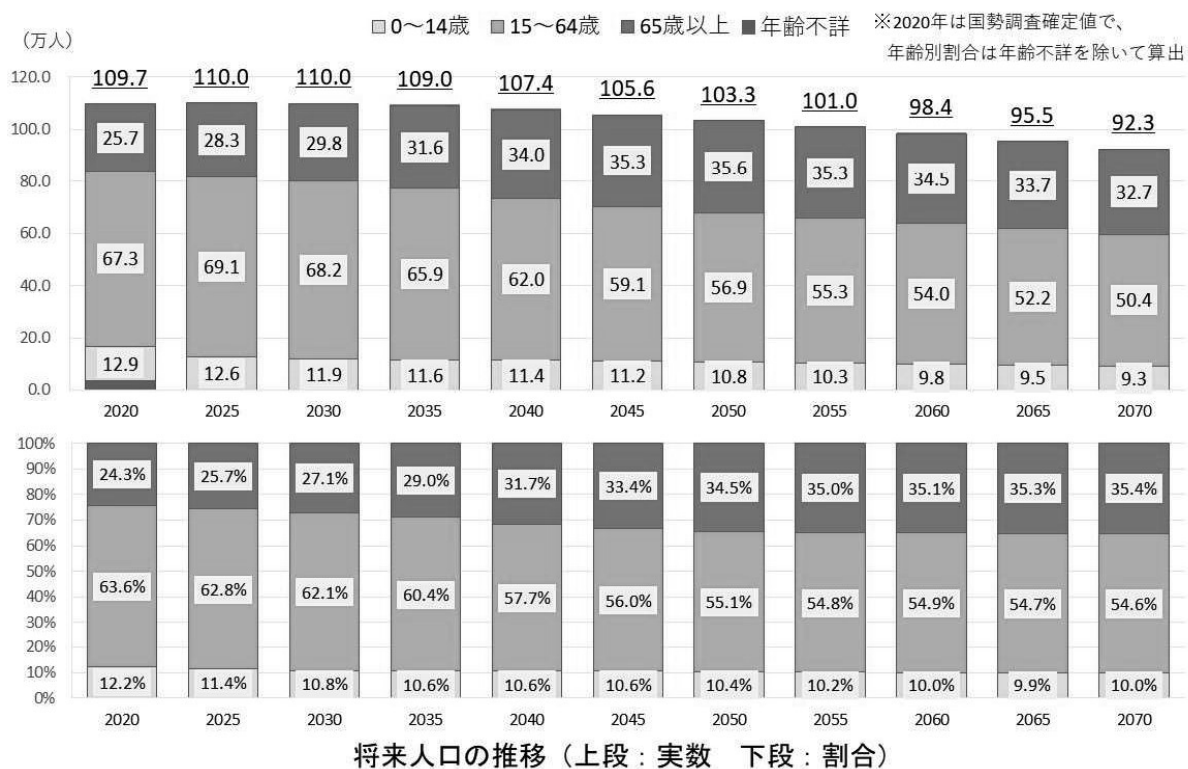
図表5 築20年以上の児童館及び大規模改修未実施館(令和5年4月1日現在)

	20年以上	30年以上	40年以上	合計
児童館数	30館	19館	8館	57館
うち改修未実施館	30館	8館	4館	42館

#### (2) 人口減少社会への対応

- ・仙台市は近い将来人口減少局面を迎え、小学校児童数も減少が続く見込みである。そのような中でも、宅地開発等の状況により学区によっては、児童が急増する地域、減少する地域が存在し、地域ニーズに合わせた対応が必要となっている。(図表6)

図表6 仙台市将来人口推計



資料: 仙台市まちづくり政策局

## 4 環境整備の遅れ

### (1) 防犯対策、エアコン設置

- ・児童館・児童クラブへは児童の安全の確保が求められており、防犯対策のため防犯カメラの設置が必要となっている。
- ・また、遊戯室へのエアコン設置が完了していない児童館があり、夏季には熱中症予防のため遊戯室を使用することができない場合がある。
- ・児童クラブ利用児童の保護者の児童クラブに対する不満について、「遊戯室にエアコンがなく暑くて遊べない」(11.9%) が、「その他」、「無回答」を除くと2番目に多くなっている。(参考資料2 p.13)

### (2) 児童館の立地条件による課題

- ・市民センターやコミュニティ・センター併設館、学校外のサテライト室などは、小学校から離れた場所に位置している場合があり、小学校から児童の移動を要し、安全上の課題がある。(図表7、8)

図表7 児童館（児童クラブ室）の設置場所（令和5年10月1日現在）

小学校内			小学校外	
小学校敷地内 又は隣接	小学校合築	余裕教室活用 (マイスクール児童館)	単独館	併設館※
19 館	7 館	12 館	35 館	40 館
38 館			75 館	

※市民センターやコミュニティ・センター

図表8 サテライト室の設置場所（令和5年4月1日現在）

小学校内			小学校外		
余裕教室	タイムシェア	プレハブ	民間賃貸物件	プレハブ	公共施設等
12 か所	47 か所	2 か所	25 か所	4 か所	6 か所
61 か所			35 か所		

## 5 ICT 利活用の遅れ

### (1) 児童クラブ業務への ICT 利活用

- ・児童の入退館管理や、児童館と保護者の連絡等を紙媒体で行っており、保護者・児童館双方の負担となっている。
- ・児童館へのアンケート調査の職員数に関する課題として、「事務量が多い」(59.8%) が最も多くなっており、課題解決の方策としては、「デジタル化の推進」が 44.6% となっている。(参考資料 1 p.4)

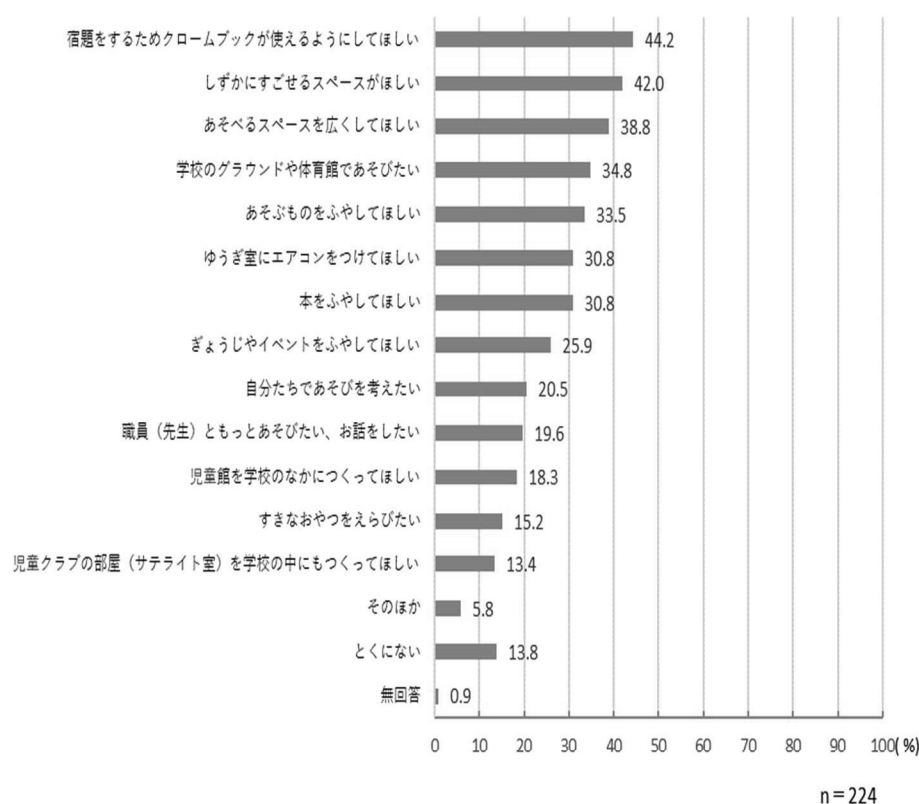
### (2) システムがネットワーク化されていない

- ・保護者負担金システムが市と運営団体、児童館の間でネットワーク化されておらず、事務効率及びセキュリティ上の課題がある。

### (3) Wi-Fi 環境の整備

- ・1人1台端末(Chromebook)による宿題等の学習活動に児童クラブで取り組むことができるようにするため、Wi-Fi 環境の整備が必要となっている。
- ・児童クラブ利用児童の児童クラブへの要望について、「宿題をするためクロームブックが使えるようにしてほしい」(44.2%) が最も多くなっており、Wi-Fi 環境の整備に対するニーズの高さがうかがえる。(図表 9)

図表 9 児童クラブ利用児童の児童クラブへの要望



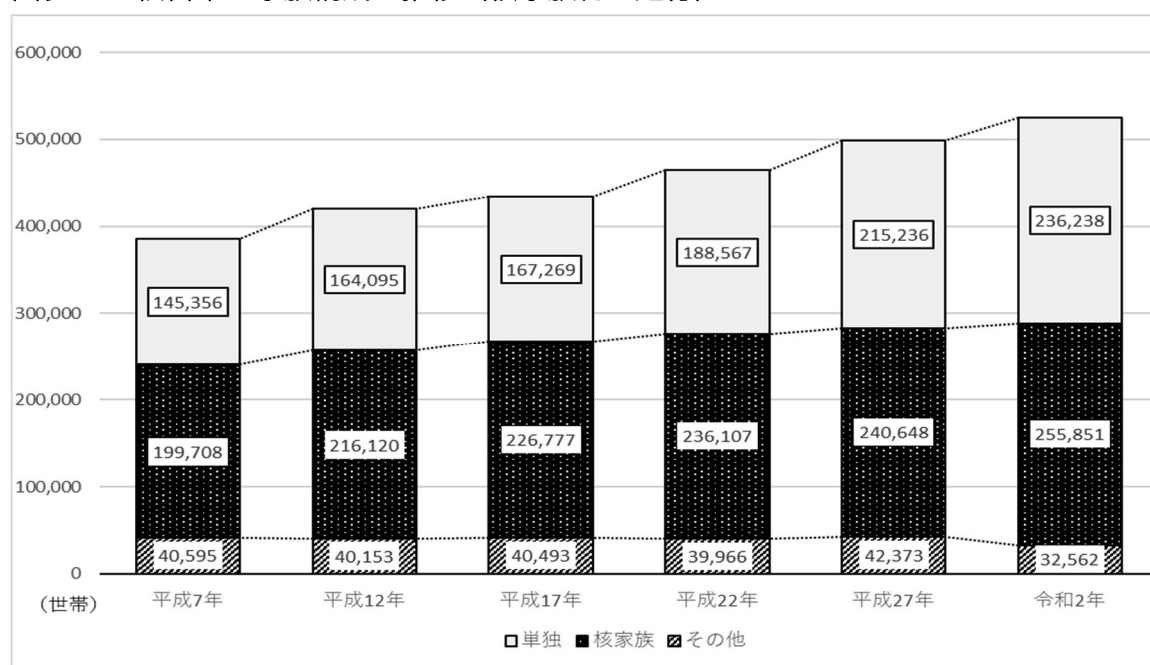
参考資料 2 p. 8

## 6 子育て家庭への支援

### (1) 子育て家庭への支援

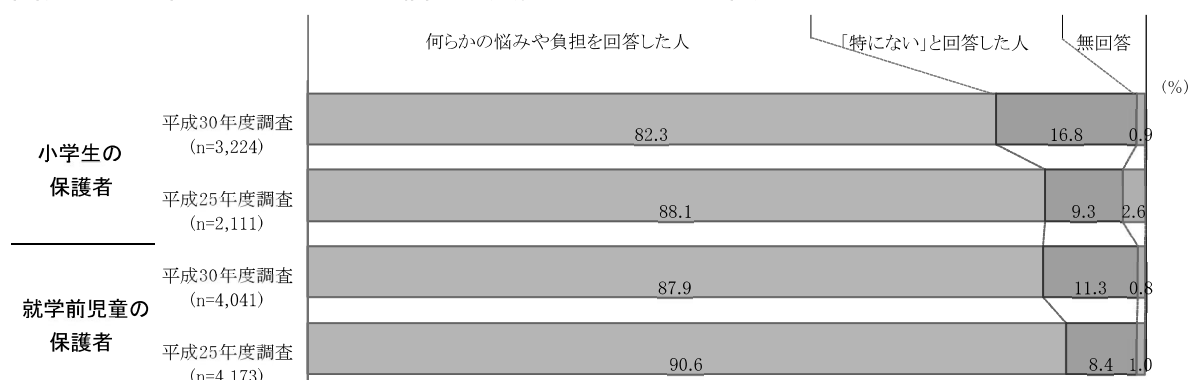
- ・核家族化や地域の人間関係の希薄化等を背景とした、子育てにおける孤立や様々な不安・負担に対し、交流・息抜き・相談支援の場や、負担軽減の支援が求められている。
- ・市の平成30年度の調査によると、子育てをする上での悩みや負担に関しては、平成25年度に比べて減少しているものの、8割以上の人が何らかの悩みや負担を抱えていると回答しており、多くの子育て家庭が支援を求めている状況がうかがえる。(図表10、11)

図表10 仙台市の家族構成の推移（核家族化の進行）



資料：国勢調査（総務省）

図表11 子育てをする上での悩みや負担に思うことの有無



資料：子ども・子育てに関するアンケート調査（平成30年度）（仙台市こども若者局）

## IV 基本理念

令和 5 年 4 月に施行されたこども基本法の基本理念なども踏まえ、子どもをまんやかに据え、子どもの最善の利益を第一に考えて、児童の健全育成を推進していく必要がある。

また、おおむね小学校区ごとに児童館が整備されているという仙台市の強みを活かしながら、子どもや子育て家庭が身近な相談先として相談したり、支援を受けたりすることができるよう、寄り添い支える身近な地域の子育て支援拠点としての役割を果たす必要がある。

そのため、今後の児童館運営に関し、次のとおり基本理念を定め、子ども及び子育て家庭のための施策を推進することが求められる。

- ◆ 子どもをまんやかに、子どもの最善の利益を保障し、子どもの健全な育成を推進する
- ◆ 子どもや子育て家庭に寄り添い支える、身近な地域の子育て支援拠点としての役割を果たす

## V 中長期を見据えた基本方針

### 1 児童の生活の場・遊び場の環境改善

子どもの視点に立ち、子どもが安全安心に心身ともに健やかに育つことのできる環境を計画的に整える。

### 2 多様性の尊重・子育て家庭を支える地域の拠点

地域の子育て支援拠点として、誰もが利用、交流しやすい環境・運営体制を整備し、要支援児を含め様々な年代の児童の育成や子育て家庭の支援、地域の活性化を行う。

### 3 持続可能な児童館・児童クラブ運営・児童の育ちを支える人材

地域の児童健全育成の拠点として、安定した運営を支える制度運用、人材確保・育成を推進する。

### 4 社会の変化に対応した施設計画

将来的な人口減少や共働き世帯の増加など、急激な社会の変化に伴う需要の変動に、柔軟に適応していくことのできる施設マネジメントを行う。

## VI 基本方針を踏まえた具体的な対応方針

### 1 児童の生活の場・遊び場の環境改善

#### (1) 遊具・備品・図書の充実

##### 課題分析

- ・児童館及び児童クラブサテライト室の遊具・備品・図書の購入費用については、指定管理料等に一定額が含まれるほか、高額な遊具・備品については、管理運営団体からニーズを聴取した上で予算の範囲内で市が適宜購入している。
- ・乳幼児親子自由来館者が児童館に改善を望む事項について、「遊具、絵本、備品の充実」が38.1%と最も多くなっている。また、児童館を利用したことがない小学生の保護者が、児童館がどのような場所であれば、子どもを遊びに行かせたいと思うかについては、「遊具、備品が充実している」が27.4%と3番目に多くなっている。（参考資料2 p.60、p.49）

##### 今後の方針

- ・児童の遊びや活動の充実のため、遊具・備品・図書の拡充、定期的な更新を行っていく。
- ・遊具・備品・図書の拡充、更新に当たっては、毎年各児童館にて実施している児童アンケートの結果など、児童の意見を反映する。

#### (2) 児童クラブ専用区画面積の拡大

##### 課題分析

- ・専用区画とは、遊び及び生活の場としての機能並びに静養するための機能を備えた、児童クラブ事業専用で使用する区画をいい、条例※により、児童1人につきおおむね1.65㎡以上という面積基準を定めている。  
※仙台市放課後児童健全育成事業及び家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例
- ・仙台市では児童館において児童クラブ事業を実施していることから、居室ごとに児童クラブ専用区画の面積へ算入する割合を定め、その割合を基に算定した面積の専用区画を設けている。（図表12）
- ・児童クラブ利用児童の児童クラブへの要望について、「遊べるスペースを広くしてほしい」が38.8%と3番目に多くなっている。また、児童クラブ利用児童の保護者が、設備面で児童館・児童クラブに必要と考えるものについて、「児童クラブのスペースの拡大」が30.4%と2番目に多くなっており、児童クラブ利用者が児童クラブ専用区画面積の拡大を求めていることがうかがえる。（参考資料2 p.8、p.16）
- ・また、児童クラブ利用児童の多い放課後の時間帯や長期休業期間は、自由来館者が利用しづらい状況があり、子育て家庭支援機能など他の児童館固有の機能を縮小せざるを得ない場合がある。
- ・児童館を利用している小学生（児童クラブ利用児童以外の児童）の保護者が、優先